

「令和5年度 国語問題研究協議会「日本語をどう書くか」に参加して」

林 篤裕（名古屋工業大学）（[Atsuhiro Hayashi](#) <へボン式>）

1. 国語問題研究協議会：文化庁

「国語問題研究協議会」は、昭和25年以降、国語に関する関心を持っていただくこと及び国語施策の充実に資することを目的とし、毎年度開催してきました。我が国の国語施策についてお伝えし、国語をめぐる諸問題について、改善の方法等を研究協議しています。

令和3年度からはオンラインで開催しています。学校の国語科教育に関わる方をはじめ、国語に関心のあるどなたでも参加可能です。

2. 令和5年度 国語問題研究協議会：令和5年8月23日 オンライン開催

「日本語をどう書くか」

情報機器の普及で、誰もが発信者になれる時代、日本語の書かれ方にも変化が見られます。

現代社会において「日本語をどう書くか」について改めて考えてみませんか。

- [Webページ](#)
- [ポスター（表）](#), [（裏）](#)
- [アーカイブ配信動画（全体を通して）](#): Youtube (3h4m)
- プログラム

- I. 国語問題研究協議会と文化審議会国語分科会における審議事項
武田 康宏(文化庁国語課) [[配布資料](#), [講演部分動画](#)(18:21-40:54)]
- II. ローマ字に関する意識調査の結果について
文化庁国語課 [[配布資料](#), [講演部分動画](#)(40:55-56:44)]
- III. 横書き・縦書き / かな・漢字
成川 祐一(共同通信社) [[配布資料](#), [講演部分動画](#)(1:08:10-1:25:33)]
- IV. 小学校国語科における日本語表記の学習について --ローマ字表記の学習の目的・内容を中心に--
長岡 由記(滋賀大学) [[配布資料](#), [講演部分動画](#)(1:25:45-1:42:49)]
- V. 日本語をどう書くか
森山 卓郎(早稲田大学) [[配布資料](#), [講演部分動画](#)(1:42:58-2:01:51)]

3. 講演概要と若干のコメント

【私見:全体を通して】

- 今回の協議会のテーマである「日本語をどう書くか」の中の、「どう書くか」の意味するところは、「論理的に書く」とか、「構造を使って書く」、「筋道立て書く」等の意味ではなく、「表記」を意味していた。しかも、主には「ローマ字表記」についてのものであった。その意味で個人的には

「日本語の文はどう表記するのが適切なのか」というタイトルの方がしっくりするように感じた。

- その中であって、森山先生の講演内容は、私の関心に応えてくれた。（ご本人が私と同じ誤解をして講演をお引き受けになったか?）

I. 国語問題研究協議会と文化審議会国語分科会における審議事項 by 武田 康宏

- 旧仮名遣い、ローマ字：発音に準拠する表記方法に推移している
- ローマ字には 訓令式(tukusi)、ヘボン式(tsukushi)、日本式(di, du, dya)がある。
- 小学校におけるローマ字教育は、昭和22年からは選択制で実施。昭和33年からは必修。
- その背景には、ローマ字を「読める、書ける、母音と子音の関係の理解」から、「PC入力、外国語の普及等への対応」がある。
- **【私見】** 時代の変化や要請と共に、表現形式も変化していくものなのだ。それを文化審議会国語分科会で検討くださっているのかな。

II. ローマ字に関する意識調査の結果について by 文化庁国語課

- 調査趣旨：ローマ字に関する意識について調査し、調査結果を国語施策の参考に供する。
- ローマ字つづりとローマ字入力に関する意識調査 @福島県、佐賀県
- 小学校第5学年 258名、中学校第3学年・高等学校第2学年 927名、小学校教員 70名、中学校・高等学校等教員 147名
- どこで学んだか、何時学んだか、何ができるようになったか、...
- **【私見】** 調査趣旨には、調査結果を「国語施策の参考に供する」とあるが、今ひとつ「どういう結果だったのか」、「どこが参考になりそうなのか」が理解できなかった。そもそも論となるが「参考に供する」という言い回しは弱い感じがする。「資する」とか「供する」ではダメなのか。

III. 横書き・縦書き / かな・漢字 by 成川 祐一

- 新聞社の新入社員も書けない。
- 使い分けについて：漢字、カタカナ、ひらがな
- ネットと書籍による違い
- 縦書きと横書きの違い：リズムの取り方にまでにも影響する
- 常用漢字表、現代仮名遣い、送り仮名の付け方
- 会社として統一した表現が好ましいので「[記者ハンドブック 新聞用字用語集](#)」を編纂
 - 「目安」、「よりどころ」として運用している
- 読みにくくなる組み合わせは避けよう
 - 規範だと言っても、厳密に適用すべきものではない

「動植物名はカタカナ」が原則ではあるのだが、

1. 伝統漁法のウ飼いはウを使ってアユをとる。<=== ルールを厳密に適用したら
2. 伝統漁法のう飼いはウを使ってアユをとる。
3. 伝統漁法の鵜飼いはウを使ってアユをとる。<=== 運用上の表記
4. 伝統漁法の鵜飼いは鵜を使って鮎をとる。

- **【私見】** 規則はあるものの、リズムや読み易さ等も考慮して、臨機応変に表記するものなんだ。曖昧さが認められている。寛容さがある一方で、厄介な部分でもあるのだろう。

IV. 小学校国語科における日本語表記の学習について --ローマ字表記の学習の目的・内容を中心に-- by 長岡 由記

- ローマ字：小学3年生
- 訓令式、ヘボン式

- PCへのローマ字入力
- ローマ字教育の目的
 - 過去：読み書きできるように
 - 現在：国語の音韻についての自覚、国語の構造ならびに機能上の特質についての理解を深めること ==> 母音と子音の組み合わせを理解
- **【私見】** 現状報告であった。時代と共に変遷。PCへの対応などは「言葉」を取り扱うことから組み込まれた領域と言えるのだろう。

V. 日本語をどう書くか by 森山 卓郎

- 「日本語学」の視点から
- 「考えをまとめ文章を構成する能力」には課題がある
 - そもそも「書くこと」は難しいのだ。
 - 多くの人が苦手意識を持っている。
- 書くことの困難性
 - i. 線条性
 - 言葉とは基本的に「線」として整理される情報。
 - 言語化：ふわっとわかっていること、全体に見えていること、あれこれ考えることを、「言葉としての明確な1本の線」になおす。
 - ii. 文字言語化
 - 「線」にしていくための流れ
 - 語彙「ことば（語）えらび」
 - 文法（表現のくみたて）
 - 文字・表記の調整
 - 文章構成・論理
 - iii. 相手に伝わる
 - 伝わるかどうかは結果論。
 - 「書く」ことの目的は多様。
 - 自分が「書く」だけでいい場合もある。
 - 相手がいる場合には「相手」へ効果的に「伝わる」必要。
 - 文章のジャンルの違いにも対応。
- 論理をどう組み立てるか <=== 多様、いろいろな方法と考慮点がある
 - 具体例と一般化
 - 疑問と答え
 - 主張と理由
 - 提示順も
 -
- 言葉選びに困ったら 国立国語研究所「[現代日本語書き言葉均衡コーパス](#)」(BCCWJ, Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)が参考になる。
 - 「事故が起こる」「事故が起きる」どっちが良い?
 - より多く使われている? どういう文書に多い? どういう使い方?
 - [検索条件画面](#), [検索結果画面](#)
 - オンライン版(無償): 少納言(登録不要)、中納言(登録不要)
 - オフライン版(有償): BCCWJ(有償版)
- まとめ
 - 書くことはむずかしい。
 - そこで、「言葉」にたちどまりながら。
 - 一つ一つのステップを身につけていく
 - 相手への「想像力」
 - 経験を積むことも大切 → 相手意識を持ってコンパクトに書くことも有益。

- 絶対的正確ではなく「少しでもよりよく」「少しでも言葉の交通事故を減らせるように」!
- 参考文献
 - 森山 卓郎(2012b), 『[日本語・国語の話題ネタ](#)』, ひつじ書房
 - 森山 卓郎編著(2016), 『[コンパクトに書く 国語科授業モデル](#)』, 明治図書
 - 森山 卓郎・渋谷 勝己編(2020), 『[明解日本語学辞典](#)』, 三省堂
 - 森山 卓郎(2023), 「意見文の表現と言語への習熟」『[日本語習熟論研究1](#)』, 日本語習熟論学会

- **【私見】** 「書くことの困難性」が3つの事項にまとめられていること、および「線条性」という考え方は新鮮であった。
 - 言葉・言語とは「1次元データ」として捉えるものなんだ。
- 相手を想定し、伝わるかを考えながら作文するしかないようである。
- 本人がどこまで考えを巡らし、作り込んで文を作成したかが成果に繋がる。それには経験も相当に寄与している。
- 「言葉の交通事故」という考え方。
- 絶対的な正解がないということの「ありがたみ」と同時に、多様、雑多、混沌にも繋がっているような。
- [疑問] 作者の熟考を読み解けない読者(評価者)が採点を行った場合、評価がバラつくのではないか。大学入試での公平性をどう保障するのか。評価者の質保障は?
 - A0入試(現在の総合型選抜)では許容される・認められるであろう。

4. 参加しての感想: 結局、論理的に文章を書くには

- 漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字表記の選択基準
 - 規範と実用のバランス: 厳密には運用できないもの
- 同様に、文章にも「絶対的な正解」は存在しない。
- 「言葉の交通事故」をなくすための文章の構築
 - 分かり合うための言語コミュニケーション
 - 「解り易さ」が基準だが、個々人に依って異なる。
- 体得するには...
 - 森山先生が挙げられた「書くことの困難性」の3項目は参考になる。
 - 線条性、文字言語化、相手に伝える
 - 「書く機会をたくさん作る」「経験すること」
 - 送り仮名を調べる習慣 <=== 私には抜けていた。ソフト任せ([Just Right!7 Pro](#)(ジャストシステム))
 - 「添削」
 - 「人に伝わるを念頭に書く」
 - 誰に対して発信する文章か? 相手に依って文体を選択しているのでは。
 - 「たくさん読む」
- 話すこと・聞くこと
 - 日常生活を送る中で。習得が比較的容易(安易)。
 - ただし、正確に伝わっているかの評価は行われていない。
- 書くこと・読むこと
 - 能動的な練習が要る。
 - 厳密な評価が出来るのか。



[ホームページ](#)に戻ります